

講演 1

●講演表題

「地球温暖化問題を取り巻く構図と見通し」

●講師

経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 課長補佐（総括）
兼 大臣官房 政策企画委員（環境政策担当） 菊川 人吾

●講演概要

COP15の結果やそれに至る交渉経緯を紐解き、国際交渉における各国の利害得失にアドレスする。講演者のWTOドーハラウンド交渉に携わった経験も踏まえ、今後の国際交渉の構図を検討する。

●略歴

1970年大阪生まれ。京都大学農学部卒。
英国ストラスクライド大学留学（国際ロータリー財団）。
米国コロンビア大学（公共経営学修士）、ハーバード大学 visiting scholar。

H6 通商産業省入省。大臣官房企画室、産業政策局商務室、流通産業課、特許庁総務課、産業技術環境局環境政策課、石川県庁出向、商務情報政策局サービス政策課、通商政策局通商機構部を経て現職。

講演 2

●講演表題

国内外におけるスマートグリッド技術の開発動向

●講師

東京大学 生産技術研究所 研究員
東京大学大学院工学系研究科講師

●講演概要

欧米で提案されているスマートグリッドは、主に分散型電源の出力安定化や需要家との双方向通信によるデマンドレスポンスなどを用いて、再生可能エネルギー電源の普及支援や需給協調制御による電力価格安定化および供給信頼度向

上を狙っている。わが国では、情報通信ネットワークを活用し、集中型電源を中心とした高効率、高品質、高信頼度の電力供給システムが既に出来上がっている。しかし、将来の低炭素社会の実現に向けて、太陽光発電(PV)に代表される再生可能エネルギーの大量導入、電気自動車などの新しい電力利用、利便性の向上と省エネの両立などを進めていくと、わが国においても新しい電力需給制御技術が必要になってくるものと考えられる。

本講演では、主に、デマンドレスポンスの研究動向、適用時のポテンシャルと課題、供給側と需要家側を連携し、PV大量導入時の問題に低コストで対応する需給一体形の運用制御手法などを紹介する。

●略歴

浅野浩志 (アサノ ヒロシ)

東京大学工学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了。博士(工学)
米国スタンフォード大学客員研究員、東京大学工学部助教授、東京大学大学院教授を歴任。

2008年より財団法人電力中央研究所 社会経済研究所 スタッフ 上席研究員
東京大学講師(非常勤)。東京大生産技術研究所研究員。東京理科大学講師(非常勤)を兼務。